イ　地域固有の魅力を見直す効果

日本は、亜熱帯から亜寒帯、原生自然から里地里山、里海まで、自然と文化が一体となった多種多様な自然や風土を有しています。豊かで荒々しい自然と共生してきた先人たちの知恵と伝統は、各地に固有の特徴を持ちながら、各地の人々の暮らしや生き方の中に深く浸透し、息づいています。自然の魅力そのものに加え、このような自然と密接に関わってきた生活文化もまた、観光旅行者を強く引きつける魅力なのです。このように多彩で特徴あるものを改めて見直すことで、エコツーリズムの題材にふさわしい自然観光資源として様々な体験を提供することが可能となります。

ウ　活力ある持続的な地域づくりの効果

地域においては、その地域固有の自然観光資源を活用することにより、多様化が進む観光需要に対応できる魅力が増し、観光地としての競争力が高まるだけでなく、従来、観光が盛んでなかった地域においても新たに観光を振興することも可能となります。その結果、雇用の確保や観光を始めとした既存の産業との相乗効果、経済波及効果などが期待できます。それに加え、地域資源の再認識や観光旅行者とのふれあいなどを通じて、地域で何が大事な資源かという点について共通の理解が進むとともに、既存の観光事業者の持続的な地域づくりに対する意識が高まることや、地域住民が地域に誇りを持つことなど、活力ある持続的な地域づくりの効果がもたらされます。

⑵　エコツーリズムへの取り組み方

法第３条に定める４つの基本理念は、「自然環境の保全」、「観光振興」、「地域振興」、「環境教育の場としての活用」とされています。この理念に沿って地域でエコツーリズムを推進する一般的な取組は、

①　行政だけでなく、観光や農林水産業を始めとする関連産業や自然保護等に携わる人たち、地域住民などが一堂に会し、話し合い、
②　地域が伝えたい魅力（＝地域の宝）をみんなで見つめ直し、あるいは探し出し、
③　その魅力を子どもたちに伝えつつ大切にしながら、観光旅行者等のニーズも踏まえて磨き、
④　地域外からの観光旅行者等にうまく伝え、
⑤　観光旅行者等が得た感動を更に宝を磨く原動力とすることで、
⑥　地域経済に活力を与えつつ、他産業との連携などの波及効果を広げる

という相互に関連する一連の行為となります。

⑶　エコツーリズムに取り組む上での基本的な視点と配慮事項

これらを具体的に実現させていくには、以下の視点が基本となります。

①　「大切にしながら」という視点

自然環境や生活文化などの自然観光資源を保全するとともに、持続的に利用するという考え方がエコツーリズムの取組全てにおける考え方の基盤となります。

②　「楽しみながら」という視点

“おもてなしの心”を持って観光旅行者等に楽しんでいただくことが前提であり、このことで自然や地域を好きになる人が増え、継続性が出てきます。

③　「地域が主体」という視点

地域を中心として観光旅行者等を迎える関連する人たち全てが協力し合いながら、自ら考え、行動することが求められます。

さらに、次の点に配慮することも必要となります。

・事前にルールなどを決めてエコツアーを実施し、自然観光資源の状態を継続的にモニタリングするとともに、その結果を科学的に評価し、これをルールや活動に反映させるという順応的な管理の視点
・継続的かつ計画性を持った取組の視点（目標を持ち、徐々に発展させていくという考え方）
・農林水産業を始めとする関連産業との調和や地産地消の取組などとの有機的な連携
・全ての人が自然観光資源にふれあい、その価値を享受するための多様性配慮の視点
・他の法令や計画などとの整合・連携による、良好な相互作用

３　我が国のエコツーリズムが目指す方向性

⑴　エコツーリズムの推進によって長期的に目指す姿

我が国において、エコツーリズムを推進する長期的な目標、つまり将来的に目指す姿は、次に挙げることが実現していることが考えられます。

ア　地域では

地域では、エコツーリズムの理念が地域に定着することで、観光旅行者やガイド、地域住民、観光事業者、ボランティアなどの多様な主体が相互に関わり合い、協力し合うことによって地域の結束力が高まり、地域コミュニティが再生します。さらに、地域外の人たちとの交流を通じて新しいつながりが生まれ、地域社会の活力が生み出されていきます。

エコツーリズムは、地域の自然や文化を保全しながら、それらを持続可能な形で活用していく地域づくりの仕組みです。その理念に基づいて行われるエコツアー等の活動は、地域の人々の理解と協働の下で進められ、結果として地域経済にも良い循環をもたらします。このように、自然や文化の保全と地域の活性化が相互に支え合うことで、地域全体で自律的かつ持続的に自然観光資源を管理・活用しようとする「ワイズユース（賢明な利用）」が進展し、地域の経済的・精神的な自立が実現します。

こうした取組は、地域コミュニティの強化や人口減少などの社会課題の解決にも寄与し、地域の将来を支える新たな社会的基盤を形成します。また、エコツーリズムの実践を通じて、地域の子どもたちに地域に対する誇りや愛着が芽生え、その思いが次の世代へと受け継がれていきます。

イ　参加者は

プログラム参加者は、各々の関心や理解の段階に応じた多様な体験を通じて、地域の自然や文化を体感します。これらの体験を通じて、参加者一人ひとりが自然環境の大切さを実感し、身近な環境保全などの行動へとつなげる意識が醸成されます。

エコツーリズムの取組は、地域の自然や文化を「守りながらいかす」ことを学ぶ場でもあります。参加者が地域の人々やガイドとの交流を通じて、自然との共生の知恵や地域の持続的な暮らし方を理解することで、自然観光資源の保全と利用の好循環が促進されます。

このように、エコツーリズムへの参加を通じて、地域と来訪者の双方が環境保全の主体となり、地域資源を次世代を担う子どもたちへと引き継ぐ価値観と行動様式が社会全体に広がっていきます。

ウ　国内では

地域で進められるエコツーリズムの取組が全国各地に広がり、相互に学び、共感し、連携し合うことで、日本全体としての持続可能な観光と地域づくりの基盤が形成されます。地域がそれぞれの自然や文化を保全しながらいかす取組を進めることにより、環境・経済・社会の三側面が調和した「持続可能な地域社会」が全国的に拡大し、結果として日本全体の「持続可能な社会」の実現につながります。

また、エコツーリズムの理念が観光政策や地域政策、教育、企業活動など様々な分野に浸透することで、自然や文化の保全への理解と実践が社会全体に広がり、自然と共生する暮らしと観光の在り方が日本の価値として定着していきます。

エ　海外へは

訪日外国人旅行者を始めとする外国人が、各地域で行われるエコツアーなどを通じて日本の多様な自然環境や文化に触れることで、人と自然が共生してきた日本ならではの価値観や、地域ごとに受け継がれてきた知恵を体感します。こうした体験の共有を通じて、日本の自然環境の豊かさと、それを守りながらいかしてきた地域の取組への理解が国際的に深まります。

さらに、日本におけるエコツーリズムの理念や実践事例が海外に伝達されることで、自然共生社会の実現に向けた日本の姿勢が世界に示され、国際的な理解と共感を広げていきます。これにより、観光を媒介とした異文化の尊重と相互理解が進み、持続可能な社会づくりに向けた国際的な連携の深化にもつながります。